

私たちの言葉「手話」

手話は
こころをつなぐ言葉

以前、自宅の近くのコンビニに買い物に行った時、店員さんへ手話で話しかけたことが、通じませんでした。何度かお店に行き、身振りや筆談で伝えていたうち、店員さんが少しずつ手話を覚えて話しかけてくれるようになりました。手話が分からなくても自分で工夫して伝えようとした気持ちで分り嬉しかったです。

広報たかはしや行政放送で手話があるとあります。テレビに出演した私を見た人が、自分で手話を練習して話しかけてくれた時は驚きました。嬉しかったです。これからも私の言葉「手話」でもっと話しかけていきます。



たかはし かずお
高橋 和男さん

成羽手話サークル 副会長

便利になっても
やっぱり手話で話したい

今、私は手話サークル以外に地域のグラウンドゴルフとバドミントンのサークルに所属しており、仲間と手話や筆談で話しながら楽しく活動しています。地域の商業施設でも聞こえないことを理解して、手話の勉強をしたり、レジでは目で見て分かるコミュニケーションボードを使ったりするなど工夫してくれています。以前は、聞こえないことで不便なことも多くありましたが、今はインターホンの音を光で教えてくれる機器や、メールやLINEも使えるので、ずいぶん楽になりました。でも、人と会って話す時は、手話で話したいです。安心して暮らせる大好きな高梁市で、皆さんともっと手話で話したいです。



おの あきこ
小野 晶子さん

高梁市手話ボランティアの会 副会長



はば やよい
羽場 弥生さん

手話という「言葉」を知ってほしい

平成25年に高梁市役所に入庁して、ろう者と職員との間を手話で通訳しています。病院などに同行して手話通訳することもあります。過去には、順番がきて名前を呼ばれて返事がないと後まわしにされたり、話が分からないからと受診をためらったことがあることがあったようです。

令和2年には高梁市が実施している手話奉仕員養成講座の修了生から初の市登録手話通訳者が誕生し、とても嬉しかったことを覚えています。聞こえないということについて、皆さんに手話という言葉があることを知っていただきたいと思います。

手話通訳者

伝えたい 伝わるってうれしい

高梁市手話言語条例制定10周年



たのしく手話を学ぶ皆さん

手話は一つの言語

これまで、手話が言語として十分に認められず、ろう者※は日常生活の中で多くの不便や不安を抱えていました。市は、障害者の権利に関する条約や障害者基本法で手話が「言語」として明記されたことを契機に、手話への理解を深め、普及を進めてきました。

条例制定以降、就学前の子どもから中学生までを対象とした「子ども手話講座」や、全救急隊員を対象とした「救急救命士等手話講座」など、さまざまな取り組みを行っています。

今後も世代を問わず、多くの人に手話に触れる機会を提供し、手話への理解を広げるとともに、ろう者が安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

※ろう者とは、耳が聞こえない人のうち、手話でコミュニケーションをとって日常生活を送る人のことです。

平成29年3月に高梁市は「手話言語条例」を制定し、今年度で10周年を迎えます。

福祉課 21-0284

手話言語周知へのあゆみ

- 昭和50年5月 成羽手話サークル設立
- 平成3年2月 高梁市手話ボランティアの会設立
- 平成13年6月 備中町手話サークルほたるの会設立
- 平成18年12月 国連総会で「手話は言語である」と定義した障害者権利条約が採択
- 平成23年8月 (国)「障害者基本法改正 手話を言語と明記
- 平成25年4月 高梁市役所に専任手話通訳者を設置
- 平成26年9月 市議会でも手話言語法制定を求める意見書の提出を求める請願書が採択される
- 平成28年6月 全国手話言語市区長会設立 高梁市加入
- 平成29年3月 高梁市手話言語条例制定
- 平成29年12月 「毎年9月23日は手話言語の国際デー」国連総会で決議
- 令和2年3月 高梁市登録手話通訳者誕生
- 令和4年11月 手話言語条例制定5周年記念行事を開催
- 令和7年6月 (国)手話施策推進法施行(9月23日を手話の日)
- 令和8年10月 手話言語条例制定10周年 第9回 全国手話言語市区長会「手話劇祭」を開催

今までの取り組み

小学生を対象とした「子ども手話講座」。講師の動きを見つめ、熱心に手話を学ぶ姿。10年で827人が参加しました。



「手話奉仕員養成講座」

10年間で入門課程に続き、基礎課程を修了された72人が、地域の手話の担い手として養成されました。

「救急救命士等手話講座」10年間で延べ250人が参加。緊急時の備えとして、熱心に手話講座を受講する救急救命士の皆さん。

